No.122
2023.9月1日発行

よく学び、よく遊ぶ

慶應義塾大学理工学部
応用化学科 教授

奥田 知明氏（高校45期）

1997年東京都立大学理学部化学科卒業
1999年同大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
2002年東京農工大学大学院博士課程修了，博士（農学）。
2002年慶應義塾大学理工学部応用化学科助手
2007年同専任講師，2007-08米国Wisconsin大学Madison校客員講師
2015年慶應義塾大学理工学部応用化学科准教授を経て，2020年同教授。
2015年Asian Young Aerosol Scientist Award
2023年令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術振興部門）他，受賞多数。

■立高～学生時代

バスケ部では厳しくも楽しい3年間を過ごしました。旧体育館の鳩フン掃除と地域のスポセン回りの印象が強く、新体育館の記憶はほとんどありません。クラスでは地味なつもりでしたが、1年次はクラ展チーフと演コン主役、2年次はチーム団長（DH: 真っ赤なド迫力Tシャツ！）、3年次は卒業旅行幹事と、振り返ると色々やっていたようです。数学と物理はダメでしたが化学は好きで、工学部志望でしたが、当時の化学の大町先生に、「将来化学で社会貢献したいなら、大学では基礎を学んだほうがよい」と言われ、そんなもんか、と思って理学部に進学しました。大学でも体育会バスケ部に入ったため体力的にはキツく、授業は出るものの最前列で寝ている毎日でした。4年次に入った環境分析化学研究室では、最初は湖の柱状堆積物（ボーリングコア）中の有害化学物質を測定していました。そのうち、「過去ではなくて、今の環境問題がやりたいんだよなあ」と思い、修士課程以降ではエアロゾル（大気中の微小な粒子状物質）中の汚染物質の測定に研究テーマを変えました。指導教員の定年に伴い博士課程では別の大学で学位を取得しました。

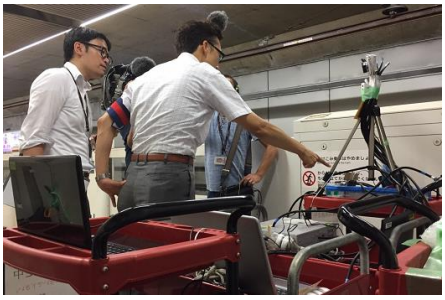
■大学教員・研究者として

助手の公募に運よく採用され、研究内容は学生時代とは結構変わりましたが、学生さんと共によく学び、文字通りよく遊びました。着任5年後に国外留学の機会を得て、論文で知っていた著名な先生にメールを送り、無事受け入れていただきました。

アメリカ留学中に仕事仲間達と活動していた
サッカーチームのメンバー

アメリカ留学は本当に楽しく、よく学び、よく遊びました。最初は全く聞き取れなかった英語も半年後には慣れ、以降英語での意思疎通に困らなくなったのは良かったです。仕事仲間とサッカーチームを作ったり、初対面の学生さんたちと学内バスケトーナメントに出たり、凍った湖に飛び込むイベントにも参加しました。帰国1週間前に友人たちがサプライズでフェアウェルパーティーを開いてくれたのは一生の思い出です。帰国後の数年間は、新たな研究テーマ開拓に苦しみました。研究費がゼロになり、ストレスから胃に穴が開きました。でもさらに5年ほど試行錯誤しているうちに、構想が少しずつ形になってきました。

現在もわからないことだらけですが、独自の研究領域を築きつつあると自負しています。東日本大震災の時に研究者として何も社会に発信できなかった思いを持っていたこともあり、コロナ禍初期の2020年にマスクが枯渇し多くの方が不安に思っているのを見て、市販のマスクでなくても口元を覆えれば効果はあるという実験動画をYouTubeに出したところ5万回以上閲覧されました。それを機にマスクの効果やオーケストラの飛沫測定、さらには換気調査などの様子がTVや新聞で報道されました。コロナ禍は非常に深刻な問題でしたが、「化学（科学）で世の中に貢献する」という高校時代の思いが、図らずも実現した出来事でした。



エアロゾル粒子調査研究のTV取材現場

■立高生へのメッセージ

「大気などの環境媒体と人間の健康を結ぶ事象について、何らかの新たな知見を得て、世界の人々のより健康的な生活に貢献する」を使命として研究活動を行っています。これは、今思えば高校時代に考えていたことがそのまま具体化されているとも言えます。高校時代の交友関係に関わらず、最近になって立高の同窓生の方と仕事上の交流をいただくことも多くあり、ありがたく思っています。結局、精一杯よく学び、よく遊ぶことが、人生を豊かに過ごすための最善な方法なのだと、高校卒業後30年を経て実感しています。私が皆さまのために何かお役に立てそうなことがありましたら、お気軽にご連絡ください。